

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	岡崎市民病院救急棟	階数	地上3F
建設地	岡崎市高隆寺町五所合3番1号	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	30人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年6月 予定	評価の実施日	2014年5月30日
敷地面積	3,464.31 m <sup>2</sup>	作成者	大野 淳
建築面積	1,638.68 m <sup>2</sup>	確認日	2014年5月30日
延床面積	2,093.67 m <sup>2</sup>	確認者	田中 嘉宏



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (100 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 96%

③上記+②以外の 93%

④上記+ 93%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.1

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">6.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				
配慮項目	県独自基準	重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境								3.6
1 音環境								3.0
1.1 騒音								3.0
1 室内騒音レベル								3.0
2 設備騒音対策								-
1.2 遮音								3.0
1 開口部遮音性能								3.0
2 界壁遮音性能								3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								3.0
1.3 吸音								3.0
2 温熱環境								3.7
2.1 室温制御								3.7
1 室温								3.0
2 負荷変動・追従制御性								-
3 外皮性能								3.0
4 ゾーン別制御性								5.0
5 温度・湿度制御								-
6 個別制御								-
7 時間外空調に対する配慮								-
8 監視システム								-
2.2 湿度制御								5.0
2.3 空調方式								3.0
3 光・視環境								2.7
3.1 昼光利用								2.6
1 昼光率								1.8
2 方位別開口								1.0
3 昼光利用設備								3.0
3.2 グレア対策								3.0
1 照明器具のグレア								-
2 昼光制御								3.0
3 映り込み対策								-
3.3 照度								3.0
3.4 照明制御								3.0
4 空気環境								5.0
4.1 発生源対策								5.0
1 化学汚染物質								5.0
2 アスベスト対策								-
3 ダニ・カビ等								-
4 レジオネラ対策								-
4.2 換気								5.0
1 換気量								5.0
2 自然換気性能								3.0
3 取り入れ外気への配慮								5.0
4 給気計画								-
4.3 運用管理								5.0
1 CO <sub>2</sub> の監視								-
2 喫煙の制御								5.0
Q2 サービス性能								3.5
1 機能性								3.1
1.1 機能性・使いやすさ								3.0
1 広さ・収納性								3.0
2 高度情報通信設備対応								3.0
3 バリアフリー計画								3.0
1.2 心理性・快適性								3.0
1 広さ感・景観								3.0
2 リフレッシュスペース								5.0
3 内装計画								3.0
1.3 維持管理								3.5
1 維持管理に配慮した設計								4.0
2 維持管理用機能の確保								3.0
3 衛生管理業務								-
2 耐用性・信頼性								4.0
2.1 耐震・免震								4.6
1 耐震性								5.0
2 免震・制振性能								3.0
2.2 部品・部材の耐用年数								3.0
1 躯体材料の耐用年数								3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								2.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								5.0
6 主要設備機器の更新必要間隔								3.0

2.4 信頼性					4.4	0.19			
1	空調・換気設備			②③に該当している	5.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20		-	
3	電気設備			①③④に該当している	5.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法			耐震クラスSとしている	5.0	0.20		-	
5	通信・情報設備			①③④に該当している	4.0	0.20		-	
3 対応性・更新性					3.3	0.29	4.6	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり					3.4	0.31	4.2	0.50	
1	階高のゆとり			階高4.8mとしている	5.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				1.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				2900N/m <sup>2</sup> としている	3.0	0.31	5.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.6	0.38			
1	空調配管の更新性				3.0	0.17			
2	給排水管の更新性				3.0	0.17			
3	電気配線の更新性				3.0	0.11			
4	通信配線の更新性				3.0	0.11			
5	設備機器の更新性			階高を高くし、天井内に余裕を持たしている。	5.0	0.22			
6	バックアップスペース			バックアップのためのスペースを確保している	4.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.1
1	生物環境の保全と創出	●	③		1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●	④		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.4
1	建物の熱負荷抑制			ポイント値146点となっている	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化					2.5	0.30	-	-	2.5
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=2.9%	2.0		-	-	
集合住宅の評価							-	-	
4 効率的運用					4.5	0.20	-	-	4.5
4.1	モニタリング			設備システムの性能評価としてBEMS対応を行っている	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制			目標値が設定されている。	5.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護					3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水			節水コマを省水型機器を採用している	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.4	0.63	-	-	3.4
2.1	材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②	砕石にクラッシュランを使用	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組	●		ほとんどの仕上げは躯体に直接貼り付けていない。	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					4.3	0.22	-	-	4.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用			接着剤、シーリング材、防水工事材料、塗料で計10項目が該当	5.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.68	-	-	
1	消火剤				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			ノンフロン型断熱材を採用している	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮				① ライフサイクルCO <sub>2</sub> の排出率は955	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				大気汚染物質を全く発生しない。	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	●			3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音	●			3.0	0.50	-	-	
2	振動	●			3.0	0.50	-	-	
3	悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			チェックリストの一部を満たしている。広告物照明を行っていない。	5.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル CASBEE-あいち(2011年度版)

岡崎市民病院救急棟

■ 評価ソフト: CASBEE-NCb\_2011v.1.3\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.2</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	3.5
<b>② 資源の有効活用</b>				
Q2-2	耐震性・信頼性	4.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	1.0
<b>③ 敷地内の緑化</b>				
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和  
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 病院救急に関わる機能を1フロアにまとめ、効率よく救急対応ができるように計画している。建物は既設建物、敷地余地により、南北に長い形状であるが、西面は極力開口をなくし、建物の熱負荷抑制を図っている。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 病室は東面と北面に配置し、窓を大きくして昼光率を上げ、サッシをブラインド内臓を採用して昼光を制御し、室内環境を高めている。室内の内装材はF☆☆☆☆を採用、換気量を多くして空気室環境を高めている。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 階高さを4.8mとし、病室の天井が2.7m以上とし、広さ感がある。構造においては重要度係数を1.5とする、耐荷重を2900N/m <sup>2</sup> 以上するなど、設備においても更新性を高め、信頼性を高めている。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 特に配慮項目はありません。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 モニタリングが計画、年間エネルギーの消費目標値が計画されるなどエネルギーを効果的に運用できるようにしている。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 仕上材は躯体と容易に分別可能になっており、部材の再利用可能向上の取り組みを行っている。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ライフサイクルCO <sub>2</sub> の排出率を一般的な建物の95%としている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取り組みがあれば、ここに記載してください。